[四章　　　 アビリティ・コントロール](file:///C:\Users\%E9%A2%9C%E5%BB%BA%E5%BF%A0\Documents\%E5%B0%8F%E8%AF%B4\%E5%A4%84%E5%88%91%E5%B0%91%E5%A5%B3%E6%97%A5%E6%96%87%E5%8E%9F%E7%89%88\%E5%87%A6%E5%88%91%E5%B0%91%E5%A5%B3%E3%81%AE%E7%94%9F%E3%81%8D%E3%82%8B%E9%81%93%EF%BC%88%E3%83%90%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%83%B3%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%89%EF%BC%89%EF%BC%97\text\part0029.html#toc-008)

#　まだ、覚えている。

尚且，还记得。

#　歩きながら自分の記憶を整理していたマヤは、ほっと息を吐く。

一边走路一边整理自己的记忆的摩耶，突然叹了口气。

#　騎士たちに追われて、サハラをび出す前に純粋概念を何度か行使した。その時の代償でなにを忘れたのか、順繰りに昔の記憶を引っ張りだしながら整理をしていたのだ。

从被骑士们追杀到召唤撒赫菈之前，自己已经用了多少次纯粹概念？那些时候又消耗了自己的哪些记忆？摩耶按着顺序清点记忆，顺带整理好它们。

#　純粋概念を振るう異世界人のへの道は、必ずしも一定ではない。個人差があるし、なにより失った記憶がどれだけその人の人格にわっているかで純粋概念の浸食率は変わる。

对于使用纯粹概念的不同异世界人来说，变成人灾的速率并不一致。除去个体差异之外，失去的记忆对这个人的人格的重要性，也对纯粹概念的侵蚀速度有着决定性的影响。

#　親、兄弟、友人に知人。

父母、兄弟姐妹、朋友还有知己。

#　自分にとって大切な人のことを忘れれば忘れるほど、精神の変容は早まる。自分という記憶の連続性がなくなった時点で一気に加速していく。自分の核になる部分の記憶が消失して自意識が揺らぐと、性格が変質してをうつ勢いで人格が崩れ、純粋概念に飲み込まれてしまう。

遗忘的人物对自己越是重要，精神的变化就会越早发生。在「自己」这份记忆变得支离破碎的时刻，人灾化的进程会一下子加速。直到最核心的记忆都被遗忘，自我意识也产生动摇，于是人格就会从性格开始像雪崩一样迅速崩塌，乃至于被纯粹概念吞噬。

#　だからマヤは、まだ大丈夫だった。

所以现在，摩耶没什么问题。

#　大切な思い出は、きちんと残っている。まだ自分が自分でいられることを確認したマヤは、顔を上げて周囲の光景を見る。

最重要的记忆，还牢牢地留在心里。确认了自己还能维持自我之后，摩耶抬头看向周围。

#　幸運なことに、マヤたちは雪が本格化する前に町に着くことができた。

幸运的是，摩耶二人算是赶在大雪封城之前到达了小镇。

#　街道の検問に発見されて大部隊が編制されかけた時は年貢の納め時かと覚悟したのだが、なにやら途中で明らかに捜索の手がんだ。本部がどうだの、町でどうしたのと伝令が騒いでいた辺り、もしかしたらマヤたちに構っていられないほどの大事件が起きたのかもしれない。

面对街道上的关卡发现自己之后，调动了大量骑士的现状，摩耶早已做好了束手就擒的准备。然而骑士们搜索的速度却在途中明显减慢了。在传令兵议论着本部怎样了，城里又怎样了的时候，说不定已经发生了足以让骑士们顾不上摩耶二人的大事件。

#「ふう。大変な逃走劇だったわね」

「呼。真是场辛苦的逃亡戏啊」

#　当のサハラはといえば、自分の苦労をアピールするために、わざとらしくの汗をうしぐさをする。

而撒赫菈本人，为了表现自己的功劳，特意做出一副擦汗的样子。

#「騎士たちの手から逃れること、二回。包囲された町から脱出して、街道の検問も突破。雪が本格化する前に、無事に次の町に到着した。我ながら大手柄ね。褒めてくれてもいいのよ？　具体的に言えば、ほら、この小指にあるヤモリの指輪のいを解いてくれても ──」

「从骑士们的手中逃离，两次。从被包围的小镇逃出，突破检查的关口。赶在大雪纷飞的时候前顺利到达下一个镇子。对我来说」我的努力功不可没呢。不给点奖赏吗？准确地说的话，你看，能不能解开我小拇指上的这个壁虎指环的诅咒——」

#「ここ……」

「这里……」

#　自分は頑張ったぞとドヤ顔して厚かましい要求をするサハラの横で、マヤは茫然としていた。

鼓吹一番自己的付出，然后就厚着脸皮开始提要求的撒赫菈的身侧，摩耶刚刚才恢复清醒。

#　彼女にとって、いまいる場所は見覚えのある町だった。

对她来说，这是个熟悉的小镇。

#「戻ってるんだけど」

「回到起点了呐」

#「……」

「……」

#　その一言に事情を察したサハラは「あっ」みたいな顔をしてから気まずそうに視線をそらした。マヤはぐいぐいとサハラの修道服のを引っ張る。

撒赫菈从这一句话中察觉到事情不对，露出恍然大悟的不妙表情，把视线移向了别处。摩耶则开始扯起撒赫菈的修道服的袖子。

#「ねえ、サハラ。戻ってるわ。ここ、メノウたちと別れた街よ？　どういうことなの？　あたしたち、進んでいたんじゃなかったかしら。ねえ？　ねえ、サハラ！」

「喂，撒赫菈。怎么回来了。这里，就是和梅诺她们分开的地方吧？这是怎么回事？我们这样，不就是在原地踏步吗？喂？喂，撒赫菈！」

#「人生っていうのは、三歩進んで二歩下がるものなのよ」

「所谓人生，就是走三步退两步的东西嘛」

#「言い訳はそれだけでいいのね……！」

「这只是借口而已……！」

#「いふぁいいふぁい」

「啊哈哈哈哈哈哈」

#　つま先立ちしたマヤが、両手でぎりぎりとサハラのをつねる。身長が低いせいで下への引っ張る力も加わって、結構な痛みのお仕置きになっていた。

摩耶踮起脚，伸出手紧紧捏住撒赫菈两边的脸。身高差距，再加上摩耶向下拉的力量，最终成功对撒赫菈施加了十足的疼痛。

#「どうするのッ。これじゃ、間に合わないわ！　徒歩じゃ、どうやっても待ち合わせの場所に着けないもの！」

「现在怎么办。照这样下去，就要赶不上了！单是走路的话，就要赶不及去见面的地方了！」

#「これを機に、おとなしくグリザリカに帰るっていうのは？」

「那刚好，老老实实回葛里萨利嘉怎么样？」

#「ヤよ！」

「不要！」

#　やる気ゼロのサハラに、烈火のごとく拒否を放つ。

摩耶带着如烈火一般的气势拒绝了干劲为0的撒赫菈。

#　ハクアに指定された待ち合わせまで、あと二日。『遺跡街』までは、徒歩だとどう頑張ったところで五日以上はかかる。その上、雪まで降っているのだ。雪中装備もなく町の外に出れば遭難待ったなしである。

距离白亚指定见面的时候，还有两天。但从这里出发走到『遗迹街』，无论如何都至少需要5天时间。而且，雪也开始下起来了。不带上防寒装备就这样离开小镇的话，只有遇难的结局等待着二人。

#　もはやマヤが約束の場所にたどり着くのは絶望的だ。サハラはしたり顔で続ける。

现在已经可以说摩耶不可能守约到达见面的地方了。撒赫菈继续得意地说着自己的想法。

#「むしろ、よかったってポジティブに考えるといい。マヤがなにをしたいか知らないけど、絶対にされているから」

「积极一点想，我觉得这样也不错。因为摩耶这样一无所知的样子，肯定会被白亚骗的」

#「よ、く、も！　下僕の分際で、ご主人さまに生意気なこと言ってくれるわね！」

「才·不·会！不过是一介仆人，怎么开始对主人说这种自以为是的话！」

#「ご主人様というのなら、まずは私のことを養ってほしい。話はそれから」

「既然自称是主人，希望你可以保证好我的衣食住行。我要说的就是这些了」

#「あたしみたいな小さな子に養われたいの!?　サハラは人としてのプライドがないの!?」

「想要我这么小的孩子养你！？撒赫菈你已经一点为人的自尊都没有了吗！？」

#「別に、楽させてくれるなら誰でも……ていうか、マヤ。目的地どころか、この町で寝泊まりできるかも怪しいわ」

「倒也不是，只要能让我轻松过日子的话谁都……话说回来，摩耶。先别管要去哪了，我在想我们今晚能不能找得到住处」

#　うぐっ、とマヤは言葉をに詰まらせる。

唔咕，摩耶一下说不出话来。

#『』経由で用意されていた隠れ家は壊されているし、宿泊所は言わずもがな、手配書が回っているだろう。このまま無警戒に顔を出して街中を歩いていれば通報の一択だ。街中でもこの天候で野ざらしに一夜過ごせば、明日には立派な凍死体が出来上がっているだろう。今夜の命がピンチだ。

由于『第四』的事件，曾准备好的庇护所被尽数摧毁。如今的这个小镇，别说住宿，恐怕通缉令都已经传遍了。如果光明正大地上街，大概马上就会被举报给骑士们。但要真的在这种大雪纷飞的街道上度过一晚，明天的街道上应该会多两具冻得扎扎实实的冰雕。这个夜晚已是生命的危机。

#「あ、あの」

「那，那个」

#　さてどうするかと悩んでいると、声を掛けられた。

正当烦恼着该怎么办的时候，传来了搭话的声音。

#　視線を向けた先にいたのは、マヤよりは年上だが、まだ幼い年頃の少女だ。号外か新聞の切れはしか、彼女の手にはメノウとサハラの姿が載っている紙が握られていた。

视线所及的是一位比摩耶稍大，但还显稚气的少女。手上拿着一片不知是号外还是剪报，但印着梅诺和撒赫菈的图片的纸片。

#　まずい。二人の顔に緊張が走る。

不妙。两人露出紧张的神情。

#　この少女は明らかにサハラのことを『』総督だと認識している。善良なならば通報をためらわないだろう。

这个少女明显是知道撒赫菈是『第四』的总督。如果是善良的第三身份，应该会立刻举报她们。

#「ま、待ってください！　『』さんには、助けてもらったんですっ！」

「等，等等！之前『阳炎的后继』帮过我！」

#　マヤの許可も取らずにとっさにを返したサハラを、少女が慌てた声で呼び止める。

少女慌乱的呼声叫住了即使没有摩耶同意，也准备马上跑路的撒赫菈。

#「お、恩返しのために、お二人をかくまわせてくださいっ」

「作，作为回报，你们两个人可以躲在我这里」

#　ツナギの上に防寒具を着た地元民の少女は、そう申し出た。

这位在连体衣外披着防寒服的当地少女，如此说道。

#

#　崩れ落ちた建物の中。倒れた騎士たちに、蟻が群がっていた。

倒塌的建筑物中。昏迷不醒的骑士们身边，有一群蚂蚁。

#　彼らはサハラがマヤに召喚された町にいた騎士たちだ。自分たちの包囲が突破された後も、周辺街道の検問を強化して粘り強くサハラを追っていた。

他们就是摩耶召唤撒赫菈的时候的那个小镇的骑士。在摩耶突破了他们的包围圈之后，他们加强了周围街道的盘查，并且紧紧地追着撒赫菈。

#　その甲斐あって彼らは『』総督を発見した。伝令からもたらされた情報をもとに出動の準備を始め、今度こそ逃がしはしないと息まいていた騎士たちだったが、そのタイミングで襲撃をかけられて壊滅してしまった。

这其中的意义在于他们发现了『第四』的总督。正当骑士们按照传来的情报做着出发的准备，想着这次绝不能放过撒赫菈的时候，遭到了袭击，全军覆灭。

#　襲撃者は、メノウとアビィだ。

袭击者是梅诺和雅比。

#「まったく。妹ちゃんに襲いかかろうなんて、悪い子たちだね。年下じゃなかったら肉体ごと分解して赤の素材をごちそうさましてるところだよ！　めッ！　わかったかな！」

「真是的。竟然想要袭击妹妹，真是群坏孩子呢。要不是你们是年下，我早就把你们分解成赤红的素材了哟！喂！听到没有！」

#「気絶してるわよ、全員」

「他们已经全都晕过去了……」

#　意識を失った彼らにたかっているのは、小さな部品で構成された蟻だ。導器である武器を解体している。せっせと運ぶ先は巣穴ではなく、アビィの足元だ。三原色の魔導兵である彼女は、運ばれてくる素材を褐色肌に通して自分の中へと収納していく。

聚集在失去意识的骑士们身上的，是用细小的零件构成的蚂蚁。它们把骑士们用作武器的导器分解。但它们陆续把这些零件带去的目的地并非巢穴，而是阿比的脚边。身为三原色的魔导兵的雅比，用褐色的皮肤把运来的这些素材收纳到身体中。

#　武装解除と素材補充を同時進行しているのだ。騎士たちの装備をすべて食い尽くした彼女は、自分の下腹部に描かれている歯車マークをつるりとでる。

解除武装和补充素材同时进行。把骑士们的装备尽数收下的雅比，摸了摸自己印着齿轮图案的光滑的下腹部。

#「うーん、量も少ないし、素材が粗悪だなぁ。【魔法使い】に減らされた残機に全然足らないし、おねーさんは不満だよ」

「嗯——不但数量少，素材的质量也很差啊。完全不够补充被【魔法使】损坏的备用机体，姐——姐我很不满意哟」

#　マヤがハクアに誘い出されたと知ったメノウたちがまず取った行動は、手近の町に設置されている騎士の詰め所に盗聴を仕掛けることだった。

得知摩耶被白亚引走之后，梅诺这边首先采取的行动就是前往附近的小镇里的骑士们的城堡偷听消息。

#　いくらアビィの索敵能力が高いといっても、この季節で目立たない程度に飛ばせる蟲の数などたかが知れている。ならばと逆転の発想で、情報収集能力がある集団に見張りをつけた。原罪概念を扱うマヤは、遅かれ早かれ騒ぎを起こしてしまう可能性が高い。そのときに出動するであろう神官たちと騎士たち、二つの動向を見張っていたのだ。

梅诺清楚，就算雅比的索敌能力再怎么高，她在这个季节最多也就只能放飞肉眼不易看清的数量的飞虫。不如反向思考一下，盯紧有情报收集能力的集团。有着原罪概念的摩耶，大概率迟早会弄点事情出来。到了那时，只要看好神官们和骑士们的动向就可以了。

#　マヤを発見したのは町の治安維持をつかさどる騎士だった。すぐさま駆けつけたものの、メノウたちがこの町に来るのと入れ違いでマヤは移動してしまった。

发现摩耶的是当地负责维持治安的骑士。尽管梅诺已经尽快赶到，但还是与摩耶擦肩而过。

#　だが、少しだけ明るい情報も得られた。

不过，至少得知了一点情报。

#「マヤのにサハラがいてくれて、よかったわ」

「有撒赫菈跟在摩耶身边，太好了」

#　マヤがサハラと一緒にいるとの情報だ。一人での行動を諦めて、マヤが召喚したのだろう。メノウにとっては朗報だ。マヤをわれているという事実はあれど、彼女が一人で行動しているわけではないというのが救いだった。

那就是得知摩耶正和撒赫菈在一起。大概是摩耶放弃独自行动，召唤了撒赫菈。这对梅诺来说是个好消息。摩耶被盯上已成事实，但得知她并没有单独行动实在是松了口气。

#　メノウとは裏腹に、その情報が凶報となったのはアビィである。

与梅诺相反，雅比觉得这个消息堪称是噩耗。

#「よくない。ぜんっぜんよくない。あの生ゴミ、よりによって妹ちゃんを連れてくるとか、ほんっと……！　年下が年上をかばうなんて、非生産的なことがあっちゃいけないっておねーさんは思うんだな！」

「不好。这一点都不好。那个活垃圾，偏偏还扯上妹妹一起走，真是……！靠年下保护年上，姐—姐我觉得人可不能做这种毫无建设性的事情」

#「そうね。そういう考えも存在しなくはなくもないわね」

「是啊。这种想法也不无道理呢」

#　メノウは首肯する。賛同したわけではなく。とてもめんどくさかったので適当に流す構えだ。

梅诺的肯定。当然并非赞同。而是为了避免麻烦而做出的适当让步。

#「サハラには期待してるけど、やっぱり確実なのは私たちがマヤと合流することだわ。もし先にマヤがハクアと会ったら、本当にまずいわ」

「虽说也有期待着撒赫菈，但首先要保证的还是和摩耶会和。如果让白亚抢在我们之前见到摩耶，那就不好办了」

#　メノウが焦っている理由は、マヤが危険にさらされているからというだけではない。

梅诺所担忧的，不止是摩耶正身处危险之中这一件事。

#「ハクアの狙いは、まず間違いなくマヤの純粋概念【魔】よ」

「白亚的目标，毫无疑问就是摩耶的纯粹概念【魔】」

#　マヤが魂に癒着させた純粋概念【魔】の危険性ゆえだ。

另一件则是附着于摩耶灵魂中的纯粹概念【魔】的危险性。

#【魔】の暴走を恐れているわけではない。ここ半年、マヤは自分に宿った純粋概念を怖がっている節があった。一人ならともかく、サハラがそばにいる状況で化するまで純粋概念を使うことはまずないだろう。万が一暴走したとしても、小指でしかないマヤだったら、いまのメノウでも対処ができる。

#　だからメノウが危機感を抱いているのは、そこではなかった。

并不是担心【魔】的暴走。这半年来，摩耶一直对存在于体内的纯粹概念怀抱着恐惧。先不论她一个人的情况，现在有撒赫菈在她身边更是不会碰到她会把纯粹概念用到自己会人灾化的程度。即使万一真的失控了，如今的梅诺也能够应对只有一根小指的力量的摩耶。

#「アビィ。アーシュナ殿下と一緒にグリザリカで【】に対抗できたのには、あなたたちの助力が大きく関わっているわ」

「雅比。在葛里萨利嘉和雅修娜殿下一起对抗【防人】的时候，你们的协助真是功不可没啊」

#「へっへーん。あのお子様年長者とは違いますから！」

「哼~哼——。因为那孩子和那些长生者不一样嘛！」

#　革命と呼ぶべきグリザリカ王国の変革を主導したのはアーシュナ・グリザリカだ。だがアビィたち一派の原色知性体の影響は無視できない。いまのグリザリカがハクアであっても容易に手出しをできない戦力を揃えている理由は、彼らにある。

亚修娜·葛里萨利嘉在葛里萨利嘉王国主导了这场足以称之为革命的变革。雅比等一众魔导兵对这场变革的影响不可忽视。因为有了他们，如今的葛里萨利嘉的军事实力就连白亚也不能轻易取胜。

#　知性を得た魔導兵はおそろしく強く、賢い。

拥有智慧的魔导兵，勇猛、强大且富有智慧。

#　だが、原色概念は原罪概念に弱いのだ。

但是，原色概念其实是弱于原罪概念的。

#　三原色の発生源となる原色空間は、ほとんど触れるだけで原罪概念異界に浸食されて変質してしまうのだ。力の多寡すら問題ではなく、相性として原罪概念が上位にある。

作为三原色的发生源的原色空间，不过是接触到少许，就已经被原罪概念的异界侵噬、发生了变质。其问题不在于力量的多寡，而是原罪概念在本质上就处于高位。

#「ハクアが【魔】を手に入れたら、グリザリカはあっさり陥落するわ。『り』諸共ね」

「要是白亚得到了【魔】，她就可以轻取葛里萨利嘉，还有『机关世界』了呢」

#「ほーら。だから、あの汚染生物の性質を甘く見てるっていったじゃん。消毒ぅ！　さっさと消しちゃおう、この機会に！」

「对——吧。所以你不也是能好好认识到那个污染生物的本质嘛。消毒！就趁这个机会，彻彻底底消毒！」

#　アビィの主張を黙殺する。

梅诺默默地否决了雅比的主张。

#

白亚这次引走摩耶的目的，很可能会成为梅诺等人的命门。

#【白】の純粋概念は、他の概念を写しとることができる。ハクアが原色概念に対して致命的効果を発揮する【魔】を手に入れたが最後、『絡繰り世』から生まれた魔導兵が主力になっているグリザリカという本拠地が瓦解してしまう。そうなってしまったら、メノウたちがどんな力を得ようと、ハクアにたどり着く前にの数に押しつぶされる。

【白】的纯粹概念，可以复制其它的纯粹概念。如果白亚得到了可以对原色概念发挥出致命的作用的【魔】，那么梅诺等人的根据地，把从『机关世界』中出生的魔导兵作为主要兵力的葛里萨利嘉会被白亚迅速解决。若是事情发展成那样，恐怕梅诺一方在寻获力量，找到白亚之前，就会被第一身份的人海战术击溃。

#　だが、マヤの独断行動がもたらしたのは、必ずしも悪い話ばかりではなかった。

但是，摩耶的独断专行招致的也不都是坏事情。

#　ミシェル個人は、メノウたちに絶対に勝てると言っていいほど強い。メノウたちがグリザリカを出たことをすぐに察知した情報収集能力もある。メノウたちがやられて本当に嫌だったのは、『遺跡街』の入り口を固められることだったのだ。

米歇尔的实力，可以说让梅诺这边毫无胜算。而且还有梅诺等人一离开葛里萨利嘉就立刻察觉的情报能力。米歇尔牢牢把守着『遗迹街』的入口让梅诺十分头疼。

#『』を求めて北大陸に来たメノウたちにとって、たった一つしかない『遺跡街』の出入り口を固めるミシェルをどうやって突破するかが、最初にして最難関になるはずだった。

追寻着『星骸』来到北大陆的梅诺一行，最初认为此行最困难也是仅剩的问题就在于如何解决把守着『遗迹街』入口的米歇尔。

#　だが今回、ハクアがマヤをおびき出すための待ち合わせ場所を『遺跡街』の入り口にしたせいで、ミシェルは最善の一手を打てなくなった。待ち伏せという策を捨て、むしろメノウたちを『遺跡街』の入り口に近づけないように襲撃しなくてはならなくなった。

然而现在，白亚为了引走摩耶，把见面的地点选在『遗迹街』的入口，拿着米歇尔这张好牌打了一记昏招。这让米歇尔不得不放弃守株待兔，只能设法袭击梅诺一方，阻止她们靠近『遗迹街』的入口。

#　さらには、北に来て真っ先に襲ってきた『』の様子からして、おそらく内で分裂が起こっている。元処刑人たちを中心として、急速に台頭するミシェルについていけない一部の神官が反発している。彼女たちの目的はわかりやすく組織政治の考えに則っている。聖地を崩壊させたメノウを捕えることで、自分たちの優位を築くつもりだろう。

而且，从刚到北方的时候袭来的『教官』的样子来看，恐怕第一身份内部产生了些许分裂。以原处刑人为主，一部分对迅速崭露头角的米歇尔不满的神官们聚集成了反抗团体。按照团体政治的思路思考就可以轻易明白她们的目的。多半就是抓住让圣地崩坏的梅诺，并以此建立己方在第一身份内的优势地位。

#　メノウとアビィ、マヤとサハラ、ミシェルとハクア、『』を筆頭とした元処刑人。

梅诺和雅比、摩耶和撒赫菈、米歇尔和白亚，还有以『教官』为首的原处刑人们。

#　様々な思惑が錯綜している現状は、メノウたちにとって好機になりえる。

各种目的错综复杂的现在，对梅诺来说是个好机会。

#「肝心のマヤたちは……なぜか、戻ってるわね」

「最重要的摩耶她们……为什么，折回来了？」

#　壊滅させた騎士たちの詰め所からマヤたちの足取りを割り出したメノウは小首を傾げる。

从这个被摧毁的骑士们的城堡中得知摩耶两人的行踪的梅诺感到有些不解。

#　マヤとハクアの待ち合わせ場所は『遺跡街』の入り口周辺で間違いない。だがマヤたちは逆方向に進んでいる。

可以肯定摩耶和白亚约定见面的地方就在『遗迹街』的入口附近。然而摩耶她们正朝着反方向前进。

#「迷ってるのかしら。いっそこのまま期日切れになったら、それはそれでいいんだけど……」

「迷路了吗？再这样下去就要赶不及了，不过倒也不是坏事……」

#「メノウちゃんたら、本当におしだね。昔の仲間に甘い言葉をかけられるだけで、ほいほい連れだされたあいつを助けようとしてるんだからさ」

「小梅你还真是个老好人。这么热心地帮助一个听到过去的好伙伴的甜言蜜语就被傻傻骗走的小朋友」

#　アビィが普段の態度に似合わない冷たさで発言する。

雅比用着与平时毫不相符的冷淡语气开口了。

#「メノウちゃんは、どういう気持ちであのチビッコを助けるつもり？」

「小梅你是抱着怎样的心情去帮那个熊孩子的？」

#「どういうって……」

「什么什么感觉……」

#「グリザリカが落とされたらおねーさんだって困るし、とりあえずあいつを取り戻すのには協力するけどさ。でも、その後だよ」

「葛里萨利嘉被攻陷的话姐姐我就会十分麻烦，总之把她救回来能帮上忙。之类的，以外的心情哦」

#　しなだれかかってきたアビィが、絡むように言葉を紡ぐ。

雅比组织的提问像雅比本人一样向美娜靠了过来，缠上梅诺。

#「あいつ、もういらなくない？」

「你是说，摩耶其实用不着帮忙？」

#　うっすらとした冷笑とともに放たれたのは、鉄よりも固く冷ややかな声だった。

随着些许冷笑一同出现的，是比钢铁还冷硬的声音。

#「あの汚染生物の厄介さがわかったメノウちゃんに、最善っていうのを教えてあげよっか？　今回はとりあえず助けて、その後に除去しちゃうのが一番だよ」

「还要我来教你该怎么做？明知那个污染生物的棘手程度的梅诺酱。这次姑且先帮你，之后你最好把她彻底抹去」

#　除去。それがマヤを殺すということを意味しているのは明白だ。

抹去。梅诺知道这就是把摩耶杀死的意思。

#　メノウが無言でアビィの目を見る。だがゴーグルの向こう側にある彼女のは、いささかも揺るがない。

梅诺沉默着看向雅比的双眼。然而风镜的另一侧的雅比的双眼中，哪怕一丝动摇都没有。

#「百歩譲ってメリットがデメリットを上回るなら考慮してもいいけどさ、もうリスクしかないじゃん。自分勝手な行動をする。情報の出し惜しみもする。自分の能力はこわがるくせに、敵にその能力が取られたら大迷惑。なによりさ、あいつの『自分の価値がなくなるのが怖いんです』っていう態度が気に食わない」

「就算退百步再分析利弊也一样，留着她只是徒增风险。自己随意行动。不舍得分享情报。而且因为她的能力非常恐怖，要是被敌人得到了更是大麻烦。总得来说，她这种『十分害怕失去自我价值』的态度实在让人讨厌」

#　マヤが持つ千年前の情報は役立った。から戻ったマヤは、メノウにとっての希望になった。しかし、それだけだ。

摩耶知道的千年前的情报十分有用。从人灾的状态中恢复的摩耶本身也给梅诺带来了希望。但是，她的价值也仅止于此了。

#　マヤは純粋概念を持っているだけのただの子供だ。

摩耶是个只拥有纯粹概念的孩子而已。

#　マヤ自身がそれを自覚していた。

摩耶自己也很清楚这一点。

#　子供の彼女は自分で自分の価値をつくれないから、誰一人味方のいないこの世界で、千年前の情報をちらつかせる態度をとるしかなかった。

这个她不能展现自我价值，就不会有人站在她的身边的世界里，摩耶只能选择向梅诺透露千年前的消息。

#「自分がかわいいだけのあーいう老害がのさばるから、かわいい年下の生きる邪魔になるんだよ。死んで欲しい。ねえ、メノウちゃん。ここできっちり確認しておこう？」

「自己变成那种除了可爱之外一无是处的老不死，甚至还变成可爱的后辈们活下去的负担。真是死了算了。梅诺，你有好好地体会到这种感觉吗？」

#　会話の主導権を損得の理屈で絡めとったアビィが、改めてメノウの意思を問う。

用得失的道理掌握了对话的主导权的雅比，再一次询问梅诺的想法。

#「あいつに、守るだけの価値がある？」

「摩耶有值得你保护她的价值吗？」

#「……そうね。マヤに関しては、この半年、結論を先延ばしにしていた私が悪かったとは思うわ。あなたが言う通りよ」

「……也是呢。这半年来，一直拖着对摩耶的看法不说，是我不好。你说得有道理。」

#　アビィの指摘は正しい。メノウにとってマヤの存在は鬼門だった。

雅比的指责是对的。对梅诺来说，摩耶一直让她觉得不太好处理。

#　するべき子供なのに、メノウが自分には助ける資格がないとあきらめた異世界人で、その上『』でハクアの仲間だったというあまりも重要な立ち位置にいる。どの要素を重要視してマヤに接すればいいのかを決めかねた。

本来是由自己保护的孩子，但摩耶却不觉得自己需要梅诺保护甚至离开了她。甚至由于『万魔殿』与白亚的关系，摩耶还把白亚放到了更加重要的位置上。梅诺难以决定自己与摩耶相处的时候，要看重哪一边。

#　自分の罪を思い出させるマヤに、どんな顔をすればいいのかがわからなかったのだ。ずっと中途半端な態度で接して、マヤのことはサハラに任せてしまっていた。

梅诺看到摩耶就总会想起自己犯下的罪恶，因此梅诺也不知该用怎样的心情与摩耶相处。结果就一直都用着犹豫不决的态度面对摩耶，甚至干脆把摩耶交给了撒赫菈。

#　屋敷をミシェルに襲撃される前に、アビィは言った。

在那个房间被米歇尔袭击之前，雅比说过。

#　──メノウちゃんって、意外と人の気持ちがわかってないよね。

——梅诺你啊，对人的感情还真是迟钝得让人意外呢。

#　その通りだ。マヤの気持ちがわからないまま放置した。

如雅比所说，自己就这样把摩耶的感情不予理解地，放于一旁。

#　メノウは、アカリのために動いている。【時】の純粋概念に飲まれてしまったアカリを引き戻す手段は現状見つかっていない。記憶の補填はハクアを倒せば必然的に『星の記憶』が使えるようになるはずだが、あまりにも強力な概念武装である塩の剣に対抗する手段が見つからないのだ。

梅诺一直都为了灯里而行动。而且尚未找到唤醒被纯粹概念【时】吞噬的灯里的方法。为了使用『星之记忆』补充记忆，就必须要打败白亚，但梅诺还没找到足以对抗盐之剑那样极其强大的概念武器的方法。

#　時と塩に囚われたままのアカリの体はモモに任せてある。モモならば信じられる。だからこそ、いまメノウはハクアへ対抗するための力を得ることにリソースを費やしている。

梅诺已经把困于时与盐中的灯里交给了茉茉。茉茉完全值得自己信任。但这也在消耗梅诺本能够用于对抗白亚的力量。

#　ハクアがアカリを狙っている以上、ハクアとの対峙は避けられない。だからこそメノウはグリザリカをから切り離した。『星骸』の管理権限を得ることができればハクアへの対抗手段となる。だから、メノウはグリザリカを出てまで北に来た。なのに、マヤは意図せずしてグリザリカ崩壊の引き金をひこうとしている。

既然白亚的目标就是灯里，那么与白亚的对决肯定不可避免。梅诺也正是出于这种考虑，让葛里萨利嘉彻底脱离教会掌握。若是能得到『星骸』的管理权限，它就可以成为对抗白亚的手段之一。梅诺正是为此离开葛里萨利嘉，来到大陆的北方。然而，摩耶正在无意中成为葛里萨利嘉崩溃的关键。

#　だから、今回の事件をマヤと向き合うための契機にするのだ。

因此，梅诺要让这次事件成为自己直面摩耶的契机。

#　マヤがどうしたいのか、なにを求めているのか。

摩耶想要做什么，又在期盼着什么？

#　様々なレッテルに惑わされて彼女の気持ちから目を逸らしていた。ないがしろにし続けていたマヤの心と向き合う時がきたのだ。

过去自己总是被各种印象所迷惑，不愿直视她的心情。如今也是正视一直总被自己所忽视的摩耶的内心的时候了。

#「マヤとは、追いついたらきっちり話すけどね、アビィ。それとは別の話で、前も言ったけど私はあなたのことをまったく信用してないの」

「雅比，关于摩耶的事，等我追上之后会和她好好聊聊。不过一码归一码，像之前说的那样，我还不能完全信任你」

#「ええー？　おねーさん、こんなに好意的なのに？　役立ってるのに？　奉仕してるのに？」

「诶诶——？明明姐姐我都这样表现好意？还提出了有用的建议？而且也在帮你的忙？」

#「あなた、擬態の要素にアカリを入れてるでしょう」

「雅比，你拟态的材料里面有灯里的部分吧」

#　ぴたり、とアビィが停止した。

雅比突然间完全定住了。

#　顔が能面を被ったかのように動かない。不随意筋すら完全に止まった、不自然な停止だ。

脸上就像是戴了面具一样一动不动。就连平滑肌陷入了僵硬，不自然的静止。

#　魔導兵──特に、アビィのように知性を得ると、彼らは自分をつくり変えて擬態することができる。だがなんでもかんでも好きなように変化することはできない。擬態には条件があるのだ。

魔导兵——特别像雅比这样的，得到智慧之后，可以通过拟态改变自我。但他们并不能随心所欲地进行拟态。进行拟态是有条件的。

#　擬態するものを、取り込む。

必须取得想要进行拟态的目标的材料。

#　それが擬態を完成させる条件だ。

这就是完成拟态的条件。

#「……なんのこ──」

「……你说什——」

#「わかるわよ。上っ面の言動がそっくりだもの。顔つきと体つきも、アカリが大人になったら、っていう感じだわ。むしろ、どうしてわからないと思ったの？」

「我知道的。表面上的言行举止都和她一模一样。外貌和身材也是，我早就感觉到这就是灯里长大之后的样子。不如说，你为什么会觉得我察觉不到？」

#　メノウは冷え冷えとした視線を向ける。

梅诺冷冷地看着雅比。

#　肉付きのいいグラマラスな肢体。成人として成熟しながらも、親しみを感じさせるかわいらしさを残した顔つき。人懐こい言動と明るい笑顔。十六歳だったアカリが成長して大人になれば、まさしく彼女のようになっただろう。

丰满迷人的身体。成年人的成熟中又透着可爱，让人感到亲近的脸蛋。热情温柔的言行以及开朗的笑容。十六岁的灯里长大成人的话，一定就像是雅比这样吧。

#「この際だから聞くわよ。どうしてあなたが、人体の擬態にアカリの要素を入れているの？」

「刚好趁这个时候问问你。为什么，你要用灯里的素材进行人体拟态？」

#「メノウちゃん……怒ってる？」

「梅诺酱……生气了？」

#「……そういう反応、本当にアカリにそっくり」

「……这幅样子，真的跟灯里一模一样」

#　メノウがアビィのゴーグルを外す。

梅诺摘下雅比的风镜。

#　ゴーグルで隠していた彼女の目があらわになる。黒目に縁取られたマリンブルーの瞳孔は、自分が持つ富すべてをなげうっても惜しくないと思わせるほど美しくきらめいている。

露出了雅比一直被风镜遮挡的双眼。黑曜石一样的眼球上嵌着海蓝色的瞳孔，这双闪烁着眸光的眼睛美得让人觉得散尽家财也在所不惜。

#　この瞳がある限り、メノウは彼女が魔導兵であるということをはっきりと認識できた。

只要看着这双眼睛，梅诺就能清楚地明白，眼前这个人是魔导兵。

#「ねえ、アビィ。『絡繰り世』第十二区長、アビリティ・コントロール。東部未開拓領域のスキルの支配者」

「听着，雅比。『机关世界』第十二区长，雅比莉提·康卓尔。东部未开拓领域技能的支配者」

#　人外の宝石の瞳と、まっすぐ視線を合わせた。

非人的宝石之瞳，与梅诺的视线交汇。

#「質問に答えなさい。私たちに会うまでは『絡繰り世』にいたはずのあなたが、ほんの半年前に初めて人の世界に来たはずのあなたが、アカリとどういう関わりがあるの？　あなた、本当はどうして、私に接触したの？　もしかしてとは思うけど ──モモに、なにかした？」

「回答我的问题。在与我们相遇之前本该在『机关世界』、在半年前才初次踏足人类世界的你，和灯里有什么关系？你与我接触到底是有什么目的？说不定还有——你对茉茉做了什么？」

#「あー……」

「啊—……」

#　顔を逸らしていたアビィが、不意にゴーグルを上げてメノウと視線を合わせる。

已经看向别处的雅比，突然抬起风镜，直直地看向了梅诺。

#「ごめん。言えない。これは、いまここにいるおねーさんの存在意義に関わることだから」

「抱歉。我不能说。这关系到你眼前的姐姐我的存在意义」

#「……そう」

「……这样啊」

#　アビィはく秘密を抱えていることを白状した。少なくともいま、モモとの関連を否定しなかった正直さに免じて、追及を緩める。

雅比爽快地坦白了自己保留着秘密。至少现在，看在雅比没有立刻否认自己和茉茉的关系的份上，这件事就先缓一缓。

#　そもそもいま発した問いについても、メノウは脳内で仮説を立てている。十中八九、モモとアカリは無事だ。どういう交渉をしたかまではわからないが、よくぞ、こんなアカリの隠し場所を見つけたとモモに感心したほどである。

就算现在没有问起这些事，梅诺心里也已经有猜测了。茉茉和灯里目前八成平安无事。虽然不知道进行过怎样的交涉，但很好，梅诺对茉茉给灯里找到了这样一个隐蔽的地方十分感动。

#「ま、いくつか不可解な点はあるけど、いまは納得しておいてあげるわ」

「嘛，虽然还有不少刻意的地方，但我现在相信你了」

#「うーん。メノウちゃんが疑い深いよぉ」

「唔—嗯。梅诺酱真是多疑」

#　おいおいと泣くアビィを黙殺して、周囲に意識を向ける。マヤたちへの追撃から注意を逸らすためにとはいえ、これだけ派手に騎士の詰め所を破壊したのだ。すぐにも追っ手を派遣するだろう。ミシェル本人が現れても少しも驚かない。

梅诺无视了开始假装哭起来的雅比，关注起周围的环境。为了吸引去追击摩耶的人门的注意力，梅诺大张旗鼓地解决了这个骑士的聚集点。应该很快就会有第一身份的人追来吧。就算是米歇尔本人现身，也在梅诺预料之中。

#「……」

「……」

#　メノウは自分がとるべき行動を思案する。

梅诺开始规划起自己接下来要采取的行动。

#　マヤと合流することは大前提だ。メノウはマヤの目的地を知っている。下手に追いかけるよりも、あの教典に記されていた位置で待っていたほうが効率的かもしれない。

与摩耶汇合是行动的主要目标。梅诺知道摩耶的目的地。比起闷头追赶摩耶，在那个教典记录的地点守株待兔说不定是更好的选择。

#　だが、そもそもいまの道筋だとマヤが『遺跡街』の入り口にたどり着けない可能性がある。そうなると二手に分かれるべきだが、気になることがある。

但是，从现在的走向来看，摩耶说不定没法按时到达『遗迹街』的入口。梅诺在犹豫着，按眼下的情况，是不是应该分头行动比较好。。

#「ハクアが聖地から出てくることは、まず、ないとは思うけど……」

「首先，我觉得，白亚应该不至于离开圣地跑来这里……」

#　本当に、記憶の補充のできない北大陸までノコノコと顔を出して来たら、それはハクアに一撃を食らわせる千載一遇のチャンスでもある。

确实如此，若是白亚风尘仆仆跑来这个不能补充记忆的北部大陆，千载难逢的给白亚一计重创的好机会。

#　考え込んでいたメノウは、ひやりとした感触に顔を上げる。

陷入思考之中的梅诺，突然打了个寒颤，露出了些许感慨的表情。

#「……雪ね」

「……下雪了」

#　厳寒の季節は過ぎても、北大陸の冬が完全に過ぎ去ったわけではない。メノウは手のひらに落ちた雪の結晶を、ぎゅっと握って溶かした。

虽然最寒冷的时候已经过去，但北大陆的冬天还没有完全结束。飘到梅诺的手中的雪花，融化在梅诺握起的掌心里。

#　行動は決まった。

做好决定了。

#「二手に、分かれるわ。アビィ。それにあたって、一つ聞きたいんだけど」

「我们分头行动吧，雅比。但现在，我有个事还想问问你」

#　最強の難敵、ミシェルを出し抜くために、アビィに重要なことを尋ねる。

为了在目前最强的敌人米歇尔手中抢得先机，有一个重要的事情要问雅比。

#「あなたが擬態するのに必要な素材情報は、どの程度？」

「你必须要用哪些材料，才能进行拟态？」

#

#　雪が降り始めた街中で、一人の神官が頼りない足取りで道を歩いていた。

开始飘雪的街道上，有一个神官在轻飘飘地走着。

#　反ミシェルの神官たちをまとめた『』だ。彼女はうっすらと積もり始めた雪にも気が付かず、思考に熱中していた。

她是团结起反对米歇尔的神官们的『教官』。她没在意地上的薄雪，而是在专注地思考。

#　情報提供者から、メノウたちの行動経路も摑んだ。戦力も集まっている。なにもかもが順調だ。『』個人の気力も、いつになくしている。

从线人那里掌握了梅诺几人的行动线路。聚集战力。这一切都十分顺利。『教官』也感觉浑身充斥着平时没有的力量感。

#「私は……私こそが……『』を抹殺して、の正義を……使命を……」

「我要……我只有……把『阳炎的后继』抹杀，把第一身份的正义……使命……」

#　ぶつぶつと自覚なく独り言をいている彼女に、通りがかる人は気味悪そうな視線を向けてそそくさと道をあける。自分を遠巻きにする周囲の反応がまったく気にならないほど、『』のコンディションは整っていた。

不自觉地念念叨叨的『教官』，让周围人都向她投去厌恶的眼光，匆匆走过。『教官』的状态已经好到她丝毫不在意路人们近而远之的态度。

#　神官たちを秘密裏に集め、反ミシェル派閥を作り上げた会合から異常なほどに調子がいい。全身が目であり、耳であるかのようだ。感覚が鋭敏になりながらも、肌を刺す寒風をものともしない強靭さを兼ね備えている。

与反米歇尔派系的神官们会合，秘密地进行了集会之后，她觉得自己的状态异常得好。眼观六路，耳听八方。感官变得更加敏锐的同时，又兼具着直面周身刺骨寒风的强健身体。

#　その感覚通り、ローブに隠れた全身の肌に目玉が生まれ、耳の穴が穿たれていることに『』は気が付いていなかった。彼女は脳が焼き切れるほど思考をフル回転させ、メノウたちの現状を分析する。

正如她的感觉，『教官』没有意识到自己隐于神官袍下的全身都在长出眼球，耳道在不断延伸。她仿佛想要把头脑烧坏一样，飞速地思考着梅诺等人的现状。

#「サハラの出現……まさか、本当に長距離転移であるはずが……ならば──召喚、か？　原罪魔導……ならば、最初に発見された子供は……『』は、こいつらを追って……いや？　それではあまりも……ならば……そうか。魔導兵が、傍にいるなら……！」

「撒赫菈的现身……难道，这应该极远距离的转移……这样的话——是召唤，吗？原罪魔导……这么说，一开始被发现的那个小孩子是……『阳炎的后继』在追她……不对？这样的话也太……这样的话……懂了。如果魔导兵在她身边……！」

#　自分たちの裏をかこうとする意図を見抜いてメノウたちの行動の全容を描く。思考が恐ろしく澄んでいる。自分の全盛期が訪れている。いまなら誰にも負けない。徐々に異形へと変化している自覚もなく、『』は歩きながら教典の通信魔導で仲間に指示を出す。

她看穿了梅诺借神官的行动将计就计的想法，猜测出了梅诺的全部计划。思路清晰得可怕。自己的全盛时期已经到来。现在不管是谁，都无法击败我。『教官』依然没有注意到自己的身体在慢慢变为异形，一边走路一边用教典的通信魔导向己方发出命令。

#　純粋概念を扱う『』や、異様なほどの実力を持つミシェルすらも打ち破れる。根拠なく自分の勝利を確信できる万能感が彼女を満たしている。

不管是获得纯粹概念的『阳炎的后继』，还是强大得异常的米歇尔，她都可以战胜。她的全身都洋溢着这种无需缘由的自信。

#「らの行動は、読めた……単独ならば……これだけ、仲間が集まれば……数で『』をすりすことも……」

「已经看穿，你们的计划……我一个人……也可以，要是召集神官……也可以靠人数击溃『阳炎的后继』……」

#　──くはっ。

——咕哈。

#　いま、自分をあざ笑う声が、聞こえた気がした。

突然，听到了嘲笑着自己的声音。

#「ッ！」

「！」

#　ばっと勢いよく背後を振り返る。

『教官』猛地转身向后。

#　だが赤黒い髪をした長身の神官の姿はない。いかにも無力なの市民が、『』の突然の挙動に不審と恐怖がない交ぜになった瞳を向けている。

但那里并没有高个子的红黑头发神官。只有因为『教官』突然的举动而感到不安和害怕的普通的第三身份投来的目光。

#　ただの幻聴だ。

只是幻听而已。

#　しかし、『』にはすでに幻聴と現実の区別がつかなくなっていた。

但是，如今的『教官』已经无法区分幻听与现实了。

#「まだ、足りないのか……『』……？」

「难道，还不够吗……『阳炎』……？」

#　見えもしない者を見るために、目を細める。

为了看清那看也看不到的身影，『教官』眯起双眼

#　答えは当然ない。だが、はっきりとわかった。自分が全盛期になった程度の力では、並みの神官を集めた程度の計画では『』をつのに届かない。処刑人の価値を証明するには足りないのだと、いまの笑い声を聞いて確信できた。

当然无人回答。但她清楚地知道了。那就是自己用着全盛时期的力量，再加上召集了诸多神官的这个计划，并不能顺利击败『阳炎的后继』，更是不足以证明处刑人的价值。『教官』确信刚刚听到的笑声就是这样的含义。

#『』はぎりぎりと奥歯をすり合わせて鳴らす。

『教官』咬紧后槽牙，发出咯啦咯啦的声音。

#　力が足りないから、奴にあざ笑われる。足りないものは補充する必要がある。

被她嘲笑是因为自己还是力量不足。自己依然需要补充那些缺乏的力量。

#　頰の傷が、うずく。

脸上的伤开始作痛。

#『』は、安宿に入る。そこにいるのは、自分の教え子だった白服の神官たちだ。愚かしくも、唯々諾々と異端審問官の指揮下に入ろうとしていた。『』の呼びかけにも応えることがなかった、処刑人の風上にも置けない裏切り者だ。

『教官』走进小客栈。曾由自己教导的白服神官们就在那里。愚钝又唯唯诺诺诺的她们如今属于异端审问官麾下。都是没有回应自己的号召，把处刑人的尊严置之不理的背叛者。

#「『』？　いままでどこに──」

「『教官』？您都到哪去——」

#「お前たち」

「你们」

#　そこにあるのは、【力】だ。

所需的【力】就在这里。

#　意思が違うのならば、同じにしてやればいい。

虽然意思有微妙的区别，但结果一样就没关系。

#　処刑人には価値がある。いままで世界の平穏を守ってきたのは自分たちだ。

一直以来守护着世界和平的我们本身，就是处刑人的价值。

#　だから処刑人を終わらせるわけにはいかない。

所以处刑人不会消失。

#　彼女たちに、手を伸ばす。無数の目玉がぎょろつく腕を見て、白服たちがぎょっとする。

『教官』对她们伸出手。白服们看到粘附着无数眼球的手臂，吓了一跳。

#　取り込むのに、手では足りない。そう思ったら、自然と腕がに割れた。割れ目にはずらりとギザギザの歯が並んでいる。

单用手还不足以吞噬下她们。『教官』刚这么一想，手臂就自然地分成了两股。裂开的地方赫然排列着着锯齿一般的牙齿

#　巨大な口を開く腕が、ばくんと白服をみにする。『』は、いま目の前にいた元部下を殺したという自覚すら抱いていない。ただ自分の指揮下に入れたという認識があるだけだ。

手臂上张开的巨口，把白服们一口吞下。『教官』只觉得她们重新回到了自己麾下。甚至没有意识到自己刚杀死了过去的部下。

#　悲鳴が上がった数分後。

惨叫发出后的几分钟。

#　部屋から出てきたのは、藍色の神官服をまとった神官の一人だけだった。

只有身穿蓝色神官服的『教官』独自离开了房间。

#『』の力はさらに膨れ上がっていた。力の充実ぶりは自分の腕が三倍に増えたかのようであり、いくつもの思考を並列に処理できる頭の冴えは、未来を確信できるほどだった。

『教官』的力量又得到了增强。自己的腕肢增加到之前的三倍，显得十分有力；思维甚至敏锐得可以能够同时思考多个事情。这让『教官』对接下来的计划更加充满了信心。

#　先ほどの思考では、足りなかった答えが出ていた。

她对之前自己想到的不足，做出了回应。

#「そうか……『』を追うだけでは……ミシェルっ……奴がッ、あの小娘がァあああああ！　この私を、誇りある処刑人をォ！」

「对了……只不过是追击『阳炎的后继』……米歇尔……她，那个黄毛丫头啊————！就让我，让真正的处刑人……！」

#　すでに呟くという声量ではなく、叫び散らしながら道を歩く。いよいよもって、『』を見る周囲の目は異常者に向けるそれになっていた。

这次的音量已不再是小声嘟囔，而是在街上一边走动一边高声大喊。周围看向『教官』的目光终于带上了看向异常者的眼神。

#「ふッ、ふぅー……貴様の……貴様らの思い通りにぃ……などォ！　なるものかぁァ！」

「呼，呼—……现在……如你……你们所愿……了吧！是吧！」

#　原罪魔導に浸食されて、降る雪の冷たさすら感じることもなく、『』は瞳を凶暴にぎらつかせて町を出た。

被原罪魔导侵蚀的『教官』，已经连飘雪的寒冷都感觉不到了。她的眼中闪烁着凶狠的光芒，离开了小镇。

#

#　雪が本格的に降り始めていた。

真正的雪季开始了。

#　しんしんと降る雪が、街並みを真っ白に染め上げていく。雪が積もるにつれて、町が静かになっていく。

纷飞的鹅毛大雪，把街道尽数染成纯白色。随着白雪不断堆积，小镇里也变得越发平静。

#　サハラはその光景を、とある魔導工房の屋内から眺めていた。

撒赫菈在魔导工坊的房间里看着外面的这幅光景。

#　室内は温かい。暖導器が発する熱が部屋を暖めて、二重窓に断熱素材の厚い壁の雪国の室内は熱を逃がさない構造をしている。文明のでぬくぬくと温まりながらサハラは口を開いた。

屋里十分暖和。这个房子不但制暖导器供暖，还使用了有利于保温的双层窗户和用隔热材料做成的厚实墙壁搭建而成。感受着文明进步带来的温暖，撒赫菈开口了。

#「いいの？　私たち、世間様では結構な悪人になってると思うけど」

「真的好吗？我们可是与这个世界敌对的恶人」

#「はい、もちろん」

「那当然，没关系的」

#　サハラの確認にいたのは、まだ十二、三歳の少女だ。上下一そろいのツナギを着ている彼女は、どこかで受け取ったらしい号外を突き出す。

对撒赫菈的疑问给出肯定的回答的是一位只有十二三岁的少女。她穿着一套连体衣，不知从哪掏出了一张报纸的号外。

#「わたし、こんな偏向報道には惑わされませんからっ」

「我，不会被这种充满偏向性的新闻迷惑的」

#　少し硬めの表情で主張してから、恥ずかしげに、しかし期待に光る視線をサハラに向ける。

她的脸上带着些许僵硬地说出了自己的想法之后，用有些害羞，但又满眼闪烁着期待的光芒看向撒赫菈。

#「なので……えへへ。『』の総督さんから、『』さんにわたしのことを伝えていただければなって……！」

「所以……啊哈哈。只要『第四』的总督愿意把我的事情和『阳炎的后继』多说说就好……！」

#「…………」

「…………」

#　またメノウがやらかしている。

又是梅诺做的好事。

#　両手の人差し指を突き合わせてもじもじしている少女の姿に、サハラは内心で舌打ちをする。さすがは『』から顔の素質だけは高評価をもらっただけある。多感な時期のな少女の心に、どんなを残しているのか。意識的にやるより、無意識の出会いのほうが人をたぶらかせているのだから恐ろしいの一言である。

看着眼前双手食指相交，样子扭扭捏捏的少女，撒赫菈心里不禁咂舌。不愧是能从导师『阳炎』那里得到「只有相貌不错」这种评价的人。她在这种正值多愁善感年纪的年轻少女心里留下了怎样深刻的印记？比起有意为之更可怕的是，梅诺或许仅仅在无意之中就拐走了少女的心。

#　だがメノウをにげる口約束で助かるのなら安いものだ。自分がたぶらかしたわけでもないしと、純な少女の好意にとことん甘えることにする。

但拿梅诺的名义定下口头约定，换得帮助倒是个好买卖。这并不是诓骗，而是少女这份单纯的好意不利用起来太过可惜。

#「ありがとう。私を助けてくれたんだもの。きっとメノウはすごいサービスをしてくれるはず」

「谢谢。既然你愿意帮我们忙，之后一定让梅诺好好报答你」

#「本当ですか!?　は、はわわ……！　すごいサービスって──すごいサービスって!?」

「真的吗！？哈，哈啊啊……！报答——报答！？」

#「おそらくね。だから、よかったら、この町を出る協力をしてもらえる？　私たち『遺跡街』に行きたいの。手伝ってくれれば、感謝の印に、なんでもしてくれるわ。メノウが」

「很有可能哦。所以，要是方便的话，可以帮我们离开这里吗？我们打算前往『遗迹街』。要是帮忙的话，出于感谢，什么要求都会满足你喔。让梅诺」

#「いまなんでもって──え？　『遺跡街』ですか？」

「现在什么都——诶？『遗迹街』吗？」

#　メノウを大安売りするサハラの目的地を聞いて、意外そうに目をしばたたかせる。

听着把梅诺卖了个好价钱的撒赫菈说出的目的地，少女满脸意外地眨了眨眼睛。

#「なんでものために、わたしも協力したいんですけど……親方がなんて言うか」

「不管为了什么，我都想帮上你们的忙……但还要看师傅怎么说才行」

#「構わん」

「没事」

#　小さく、しかしはっきりと許可が出た。作業場に入ってきたのは、この工房の親方だ。

事情不大，但也要好好取得同意。来到了工作区的人，是这家工坊的师傅。

#「しかし、本当に未開拓領域に行くのか。『』も観光だとか言っていた、なんの用があるんだ？　グリザリカ王国にいたなら、『絡繰り世』のほうが近いし、資源地として優秀だろう」

「不过，真的要去未开拓领域吗？『阳炎的后继』也说要去那边观光，有什么用意吗？在葛里萨利嘉王国的话，离『机关世界』又近，资源也丰富。」

#「本当に、観光。見てみたかったのよ、世界で一番色濃く古代文明が残る街並みとやらを」

「真的只是观光啦。好想看一次啊，那些留在那里的这个世界上古代文明气息最为浓厚街道」

#　さらっと噓をつく。心得たもので、親方も「そうか」と頷いたきり深くは追及しなかった。

随意地撒了个谎。或许是明白了什么，师傅也「原来如此」地点点头，并未深究。

#「ちょうどいい。『遺跡街』行きの列車には、ほぼ毎日積んでいる荷物がある。二重底でをつくるから、その中に入ってくれ。貨物列車に半日揺られれば、最寄りの資材場に着く」

「正好。前往『遗迹街』的火车现在差不多每天堆满了货物。你可以躲在双层的车厢底的间隙里。在货运列车晃荡半天，就能到最近的物资站」

#「ありがたい……けど、タダじゃないわよね」

「谢谢你……但是，一句感谢还不够吧」

#　この親方が自分たちを助けてくれたツナギの少女のように思考がお花畑だということはないだろう。案の定、親方は「ああ」とを打つ。

师傅应该不会像这位帮助了自己的连体衣少女一样天真。果然，他「啊啊」地顺着撒赫菈的话头继续说着。

#「が東へ入る際に、を図ってくれ」

「等我到东边的时候，给我行个方便吧」

#「東……グリザリカに移住するの？」

「东边……准备移居去葛里萨利嘉吗？」

#「ああ」

「是的」

#「ふうん」

「嗯——」

#　移住理由は追及しなかった。サハラは工房に目を配る。

撒赫菈没有追问移居的理由，而是打量起这个工坊。

#　が日常的に使う照明や暖房などの導器に混じって、技術規制ギリギリの品がいくらかある。紋章を複数組み合わせる内部刻印式に、高度な素材学の知見を求めた形跡のある資料本。明確な違反ではないが、ちょうどに目を付けられるボーダーラインだ。目に付かない場所では、さらに突っ込んだ研究もしているだろう。

整合了第三身份平时最常用的取暖和照明的导器，有许多超出了技术管制的物品。记录了能够组合多个纹章的内部刻印式，还有正在用于学习高级的素材学知识的笔记本。虽说没有明显地违反规定，但也处于被第一身份盯上的边缘了。说不定在自己看不到的地方，还有着更加深入的研究。

#　素材学と紋章学を組み合わせた魔導工学を追求したい技術者が、規制撤廃の進む東に行きたいという言葉に噓があるとも思えない。

身为想要学习将素材学和纹章学融合起来的魔导工学的技术人员，自称想要前往正在逐步取消技术限制的葛里萨利嘉，不让人觉得是在说谎。

#「いいわ。グリザリカに来たら、いくらでも私の名前を使って」

「好啊。要是到了葛里萨利嘉，就报上我的名字吧」

#　あっさりと承諾する。実際、サハラにとって難しいことではなかった。彼らが自力で東に来たのならば、適当に他の人に頼めばいいのだ。それこそ、メノウの責任にしてもいい。

撒赫菈立即就做出了承诺。实际上这对撒赫菈也不是什么难事。他们要是凭自己的力量去到葛里萨利嘉，应该也算是值得信赖的人。实在不行，推脱给梅诺就完事了。

#　親方技師の条件を聞いて、ツナギの少女がぴょんぴょんと手を挙げる。

听到父母提出的条件，连身衣少女兴奋地举起了手。

#「わたしも！　わたしも行きます！　グリザリカって『』さんの本拠地ですよねッ？」

「我也要！我也要去！葛里萨利嘉，就是『阳炎的后继』的根据地对吧？」

#「お、おい……お前は、違うだろ。家族はどうする」

「喂，喂……你就算了吧。家里人怎么办」

#「弟子入りした時、お母さんから『一人前になるまで帰ってくるな』って言われました！　一人前になるための旅修行です！」

「在决定当您的弟子的时候，妈妈就对我说『能够独当一面之前就不要回来了』！所以我要为了能够独当一面而踏上修行旅途！」

#「男前だな、お前のおふくろさん!?」

「那个大汉是你妈！？」

#　どうやら決着は弟子の少女の勝利で終わりそうだ。サハラは魔導技師の師弟の掛け合いを背中に、湯気の出ているマグカップを二つ持って立ち上がる。

不管怎样，最后的决定看来是身为弟子的少女取得了胜利。看着打闹的师徒二人的背影，撒赫菈端起两个冒着热气的马克杯站了起来。

#　寡黙な親方のみならずあの少女までがグリザリカに入ったら。そしてもし彼女たちと出会うことがあれば、さぞかしメノウは戸惑うだろう。

不单是稳重的师傅，如果少女如果也去到葛里萨利嘉。并且还碰巧遇到了他们，大概会让梅诺十分困扰吧。

#　その時のメノウが困る顔が目に浮かぶと、サハラは胸をぽかぽかさせて二階に上がった。

那个时候的梅诺满脸困扰的样子仿佛已经跃然眼前，撒赫菈心里带着点激动走上了二楼。

#

#　マヤは二階のベランダに出ていた。

摩耶正在站在二楼的露台里。

#　雪がどんどん強くなっている。視界は真っ白だ。

雪下得越来越大。眼中所见都成了白色。

#　白い光景を見ると、どうしても彼女のことを思い出す。

摩耶看到这纯白色的雪景，忍不住就想起了她。

#　メノウとほとんど同じ顔をした、マヤの勇者。

和梅诺有着同一张脸的，摩耶的勇者。

#　シラカミ・ハクアのことを。

白上·白亚。

#　千年前、彼女は自分たちを裏切った。

她在千年前背叛了自己和同伴们。

#　だというのに、いまさら会いたいのだという。

然而，事到如今自己还想要与她见面。

#　サハラは、騙されているんだろうと言う。マヤだって、ハクアがロクでもないことを企んでいるのだと半ば確信している。

撒赫菈说自己多半是被骗了。就连摩耶自己，都开始有点相信白亚盯上了没用的自己。

#　だからこそ、あの時、自分だけがやれることを思いついたのだ。

于是，那个时候，摩耶想到了一个只有自己才做得到的事。

#　自分を裏切り続けたこの世界に一矢報いる、冴えた方法を。

一个对这个总在背叛自己的世界报一箭之仇的绝妙方法。

#「でも……もし」

「但是……如果」

#　決意したはずのいまですら、マヤは万に一つの可能性を捨てきれない。

即使现在已经做出了决断，但哪怕只是万中存一的可能性，摩耶都不想放弃。

#　なにかどうしようもないわけがあるんだと、過去の裏切りを許せるほど重大な理由があるんだと、それさえ知れば元の関係に戻れるほどの真実があるんだと。

尽管忙到最后说不定也只是一场空。但或许白亚真的某个重大的理由，让摩耶可以原谅过去的背叛。若是知道了那个理由，说不定自己还能与白亚重归旧好。

#　マヤは、自分でも信じていない真実とやらを、信じたかった。

摩耶还是想要相信那些自己曾都不相信的真实。

#　雪の降るベランダにたたずむ。彼女の体が寒さを感じることはなかった。吐く息が白くなることもない。な、しかし決定的な違いを見るたびに、マヤは思い知らされるのだ。

伫立于飘雪的阳台上。她的身体感觉不到寒冷。呼出的气息也没凝聚成白色的雾气。每当摩耶看到这些细小，但有着决定性的不同的异常的时候，它们都在提醒摩耶一件事。

#　ああ、自分はもう、人間ではなくなったのだ、と。

啊——，自己早已经，不再是人类了。

#　マヤはすでに日本に戻る資格を喪失している。痛いほどに、自分の異質さを自覚している。

摩耶已然失去了返回日本的资格。认识到自己的异常，让她十分痛苦。

#　肉体が人間とは違うものになった自分は、決して元の世界には戻れない。

身体已经与人类不同的自己，早已不能回到原来的世界。

#「……戻る意味も、もう、ないのよね」

「……回去的意义，也已经，消失了呢」

#　顔に浮かべたは、幼い顔立ちに似合わぬほどに手慣れていた。

脸上熟练地浮现出自嘲，熟练得不像是十岁的小孩子。

#　日本に戻っても、待っている人間がいないことを知っていた。どんな犠牲を払っても会いたいと思っていた母は、日本にいないのだ。

就算回到日本，摩耶也知道等着自己的那个人早已不在。日本已经没有自己不管付出多少牺牲也想要见到的母亲了。

#　千年前とは違う。自分を必要としてくれた場所に帰りたかったあの頃とは、違う。

与千年前不一样。自己想要回去的那里，那个把自己看得最重要的地方，已不复存在。

#　マヤを必要としてくれる世界はなくなり、と化した自分は、いまだに南でとぐろを巻いている。

最看重摩耶的世界已经不再，人灾化的自己还在世界的南方踌躇。

#　小さく、歌を口ずさむ。

摩耶轻轻地哼起歌。

#　もちろん、童謡ではない。アップテンポのリズムで歌われるのは、マヤがいた日本で流行の曲だった。踊りの振り付けも頭に入っている。

当然不是童谣。摩耶所歌唱出的舒缓的（找到是指轻音乐或者爵士姑且选了轻音乐➡️舒缓）节拍，来自摩耶曾在日本时流行的曲子。自己现在还记得对应的舞蹈

#　歌が好きだった。

喜欢歌曲。

#　踊りも好きだった。

也喜欢跳舞。

#　小さい頃から子役になって、映画に出た時に母は喜んだ。将来は女優さんだとしそうに言っていたけれども、マヤがれていたのは歌って踊るアイドルだった。かわいさを認められて輝いている彼女たちになりたかった。

小时候成为童星，出演电影的时候，母亲非常开心。虽然母亲开心地说着摩耶就是未来的女演员，但摩耶的梦想是能唱歌跳舞的偶像。她想成为可以在台上挥洒可爱的闪闪发光的偶像。

#　そのことを打ち明けて、母親とケンカをすることすら、できなかった。

摩耶坦白了自己的梦想，甚至还和母亲吵架，也没能成为偶像。

#「いい歌ね」

「这歌真好」

#　ベランダに続いている二重窓が動く。サハラだ。マヤは歌を止めて振り返る。

阳台上的双层窗户动了。摩耶停下歌声，回头看向走来的撒赫菈

#　サハラの吐く息は、まだ白い。

撒赫菈呼出的空气，还是白色的。

#「寒くないの？」

「你不冷吗？」

#　マヤとは違い防寒具を着こんだ彼女が話しかけてくる。

全副武装的撒赫菈对衣着单薄的摩耶如此问道。

#「雪も降ってるし、その軽装だと風邪をひくとかじゃなくて凍え死んでもおかしくないけど」

「都已经下雪了，还穿那么轻薄的衣服，一会可不止是感冒，说不定会被冻死的」

#「寒くない」

「我不冷」

#　マヤは答える。これだけは強がりではない。

摩耶回答道。自己只在这件事情上不用逞强。

#「この世界に来てから、そういうの、なくなったの」

「自从来到这个世界，我身上就已经不会发生这些事情了」

#　マヤがこの世界に召喚された時に得た純粋概念【魔】は、魂よりも肉体に癒着している。

摩耶被召唤来这个世界时得到的纯粹概念【魔】，比起灵魂，更是持续地治愈着她的身体。

#　外気温程度の温度差は、ほとんど体感できない。原罪概念に適合した肉体は、体調不良になるということがない。病気にかからないのだ。それどころか、空腹感すらない。飲まず食わずでも、生命維持に支障が出ないのだ。

外界的气温变化，基本上已经感觉不到了。生病什么的更是与自己无缘。不仅疾病无影无踪，自己甚至不再有空腹感。就算不吃不喝，身体也不会出现问题。

#『自己召喚』というマヤの生命維持の原理がどうなっているのかというは、導力文明の最盛期である千年前ですら解明できなかった。

这种维持着摩耶生命的所谓『本体召唤』成了个谜，就算是导力文明最强盛的千年前，也没能得出结果。

#　多くの不快感を取り除かれる代償に、同じほどの感覚を失った。マヤの肉体に癒着した純粋概念の性質に着目し、利用したがっていた研究者は山のようにいた。

作为除去这些负面效果的代价，摩耶也失去了大部分感觉。这种能够自动修复摩耶的身体的纯粹概念的性质，想要对此进行研究、利用的研究者简直数不胜数。

#「なるほど」

「原来如此」

#　そんな背景を知らないサハラは、いまさらながらマヤが北の寒冷地でワンピースに着物をっただけで行動できているわけを納得していた。

不知这些缘由的撒赫菈，直到现在才明白为什么摩耶在这样天寒地冻的北方，只穿一身紧身衣，再披一件羽织就能活动。

#「これから、どうする？」

「之后，怎么办？」

#「…………」

「…………」

#　マヤは黙りこむ。無視をしたのではない。答えられなかったのだ。

摩耶沉默了。这不是无视，而是摩耶无法回答。

#　逆戻りをしたことで、目的地である『遺跡街』の入り口から遠ざかってしまった。歩きでは、どうあがいても不可能な距離だ。移動するためにマヤが魔物を召喚すれば、前の町の時のような騒動になる可能性が高い。第一、これ以上に純粋概念を使って記憶を削りたくなかった。

因为走了回头路，如今距离目的地『遗迹街』反而是更远了。现在这个距离，步行的话怎么都赶不及。若是为了赶路而让摩耶召唤魔物的话，大概率又会像上一个小镇那样引发骚动。最重要的是，摩耶不想为了这种事情消耗记忆使用纯粹概念。

#　いまはまだ、使うべき時ではないのだ。

现在还没到使用纯粹概念的时候。

#「……イチかバチかで導力列車に乗るのよ。そうすれば、ハクアとの待ち合わせに間に合うわ」

「……不如坐导力列车碰碰运气。那样的话，还赶得上见白亚」

#「あんまりいい手段だとは思えない」

「我不太觉得这是个好方法」

#　マヤの案に、サハラは温かいココアの入ったマグカップを渡しながら答える。

撒赫菈一边把装着热可可的马克杯递给摩耶，一边对摩耶的方法发表了评价。

#　一番変化したのは皮膚感覚だが、味覚もかなり変容している。唯一変わらないのが甘味だけだった。だからこの世界に来てからずっと、マヤは甘いものばかり食べている。

变化最大的不止是皮肤的感觉，摩耶的味觉也发生了相当程度的改变。只剩对甜味的感觉没有变化。所以摩耶自来到这个世界开始，就总在吃甜食。

#　空に浮かぶ『星骸』は、この雪の中でも視認できる。ぼんやりとした導力光を放つ物体は、むしろ雪の中に浮かびあがって幻想的な雰囲気を増している。

即使在下雪，也可以看到漂浮在空中的『星骸』。隐隐约约地看到雪幕之后，一个放出导力辉光的物体漂浮于空中。这幅画面简直充满了幻想色彩。

#　いま、強い力を持つアレを中心にして事態が回っている。

现在，围绕着那个拥有强大力量的东西发生了许多事情。

#　弱いからこそ、のけ者にされているマヤとは違って。

但这一切与因为弱小而被排除在外的摩耶来说不一样。

#　だからマヤは、誰もかれも出し抜いて、あっと言わせてやるべく、メノウから離れて単独行動をした。

所以摩耶为了赶在所有人之前，让她们因自己而惊讶，从梅诺身边离开，独自行动。

#「サハラは、案がないの？」

「撒赫菈呢，没有计划吗？」

#「貨物列車にこっそり乗り込むくらいね。北大陸の中心部までの貨物運行は、資材運搬で活発みたいだから」

「差不多也是偷偷登上货运列车呢。列车会把货物一直送到北大陆的中心地带，因为要运输物资，班次好像有很多。」

#「なによ。あたしのと変わらないじゃない」

「什么啊。这不是和我的计划没什么区别嘛」

#「失礼ね。ここの親方に話を付けてある。輸送する荷物にれこめそうよ」

「抱歉。是这里那个师傅告诉我的。说是可以混进要运送的货物里面」

#　し紛れのマヤと違って、きちんと算段を付けてある。サハラの提案を聞いて、むっと唇をらせる。

和陷入苦恼的摩耶不一样，撒赫菈是做好了准备的。摩耶听到撒赫拉的提案，撅了撅嘴。

#「……そこまで決まっていたなら、なんであたしに聞いたのかしら。先に言えば褒めてあげたのに」

「……既然都准备好了，刚刚还问我干嘛。你要早点说我会夸你的哦」

#「どうせならあきらめて中止してほしかったから」

「因为我还是希望你能放弃」

#　サハラはこともなく返答する。

撒赫菈毫不迟疑地给出回应。

#　そもそも強制的にび出された彼女は、この旅に積極的ではないのだ。明らかに騙されているとしか思えないマヤの独断行動はもとより、それ以前にメノウやマヤが求めている『星骸』の管理権限についても、サハラにとっては興味の対象ですらない。

说到底她也是被强制召唤过来的，路上一直也都没什么干劲。而且，不管是摩耶这赤裸裸的被骗之后的独断行为；还是之前梅诺和摩耶都在寻找的『星骸』的管理权限相关。对撒赫菈来说都是无趣的事情。

#「いまからでも、私は東に戻りたい。【星読み】探しの『遺跡街』探索なんてメノウたちに任せればいいじゃない。そして私たちはしばらくここに潜伏して、ほとぼりが冷めた頃にグリザリカに帰る。怪しげな誘いは無視。ほら、なんの問題もないわ」

「就算是现在，我也只想回葛里萨利嘉。至于在『遗迹街』里寻找【读星】之类的事情交给梅诺她们不就行了。至于我们，就暂时在这里藏一段时间，等风头过去之后就回葛里萨利嘉。把那个可疑的邀请无视掉。你看，这不就什么问题都没了吗」

#「そんなこと言うなら、あたしのことなんて放っておいて。あたしにはやるべきことがあるんだから」

「既然你都这么说，那就请你别管我了。我可是还有没做的事情的。」

#「マヤが私を喚び出したのよ。いまさら、そんなことを言われても困る」

「我可是被你给叫出来的啊。都到现在了，被你说这样的话很让人困扰啊」

#「なによ……」

「什么啊……」

#　あまりにも無責任なサハラの口ぶりに、自分でも思わぬほど突然、マヤの感情が炸裂した。

听着撒赫菈满嘴与她无关的语气，突然之间摩耶的感情激动得连自己都想象不到。

#「マノンを助けてくれなかったくせに、サハラはなんであたしにそんなことを言えるの!?」

「明明你自一开始就没想过要帮玛农，你怎么还能对我说那些话！？」

#　予想もしていなかったに、サハラが目を見張った。

撒赫菈惊讶地听到了完全在意料之外的话。

#「マノンはサハラのことを友達だって言ってたのに！　聖地に行ったとき、どうしてマノンを止めてくれなかったの!?　あんなの……死んじゃうに決まってるじゃない！」

「明明玛农都说了撒赫菈是她的朋友！她去圣地的时候，为什么你没有阻止她！？那可是……九死一生的地方！」

#「それは──」

「那是——」

#　自分が責められることではない。一方的な物言いに、むかっときたサハラは反発心のまま言い返そうとして、声に詰まる。

自己哪有什么好被责怪的地方。听到摩耶单方面的责怪，撒赫菈正准备顺着心中忽而生出反抗心反驳的时候，声音却噎在了喉咙口。

#　目の前にいる幼い少女の瞳から、ぼろぼろと水滴がこぼれていた。

泪水正从她跟前这位年幼的少女的眼中汩汩地落下。

#　マヤが、泣いていた。

摩耶哭了起来。

#「あの子が、いれば……まだッ。あたしはこの世界で、一人きりじゃなかった！　あたしを必要としてくれる子が、残ってたのに!!」

「要是，她还在的话……就。我就不是一个人在这里了！最珍惜我的玛农，本来能活下来的！！」

#　サハラは、なにも応えることができなかった。しん、と痛いほどの静寂が戻る。

撒赫菈无言以对。让人心痛的宁静又回来了。

#「……この際だから聞いておきたいのだけど」

「……刚好趁现在我也想问问你」

#　しんしんと雪が降る中、サハラは静かに口を開く。

簌簌地落下的雪中，撒赫菈平静地开口了。

#「マヤ。あなた、どのくらいだった時のことを覚えているの？」

「摩耶。人灾的时候的记忆，你记得多少？」

#　は記憶が消え去り、元の人格が瓦解することで魂に宿る純粋概念に突き動かされるままに行動するようになった異世界人の総称だ。マヤと『』のふるまいがまるきり異なるように、化している間の意識も記憶もないはずなのだ。

人灾是对于失去记忆，人格分解，仅仅依靠灵魂中的纯粹概念而活动的异世界人的统称。摩耶和『万魔殿』的行事风格完全不同，人灾化的时候的意识和记忆，她应该都是没有的。

#　だがマヤは少なからず『』の小指であった頃の行動を覚えている節があった。

但是摩耶却记得不少还是『万魔殿』的小指的时候的事情。

#「……ほとんど、ない」

「……基本，没有」

#　もし、『』としての千年の記憶があれば、マヤは間違いなく精神崩壊を引き起こしていた。南にある『』の中は、まさしく地獄だ。魔物の蟲毒のさなかで千年過ごした記憶など、人間が耐えきれるものではない。

千年来那些身为『万魔殿』的记忆，若是真的还存在着，必然会导致摩耶精神失常。南方的『雾魔殿』中几乎与地狱无二。与魔物相伴度过千年的那些记忆，并非是人类可以承受之物。

#「ただ、記憶が戻る時に……マノンの記憶も、一緒に入ってきた」

「只是，取回记忆的时候……也一起得到了玛农的记忆」

#　サハラは納得する。道理で、だ。

撒赫菈明白了。按理说也确实。

#　マヤは千年前の記憶と、マノンが『』と一緒にいた時期の記憶だけを引き継いでいる。

摩耶只继承了千年前的记忆和玛农与『万魔殿』同行时的记忆

#「そうね。友達だったかどうかはわからないけど、別にマノンのことは嫌いじゃなかったのは、確か」

「这样啊。我不知道怎样才算得上是朋友，但从我不怎么反感她来看或许是吧」

#「じゃあ──」

「那——」

#「でも、マノンを助けようとは思わなかった」

「但是，我从没想过要帮玛农的忙」

#　マノン・リベール。

玛农·利贝尔。

#　日本人を勘違いしたような着物をまとっていた彼女は、自分の人生が壊れていることを自覚していた。壊れ切った自分の人生に他人を巻き込むことにもなかった。

穿着与日本人一样的和服的玛农，早就意识到自己的人生已无药可救。而且还会毫不犹豫地把别人也卷入到自己这没救的人生中。

#「あの子は、誰の助けも必要としてなかったから」

「因为她根本不需要什么别人的帮助。」

#　自分の命を惜しいとすら、マノンは思っていなかったはずだ。

珍惜生命这种事情，玛农恐怕是想都没有想过。

#　なにもかも巻き込んで世界を混沌に突き落としたがっていたはずの彼女が、どうして小指といえども『』を正気に戻すことに命を懸けたのか。サハラにはわからない。

本想着要把这个世界的一切都拖入混沌之中的玛农，为什么不惜付出生命也要帮助『万魔殿』恢复记忆？即使这只是『万魔殿』的一根小拇指？撒赫菈也不明白。

#　どちらにせよ、たぶん、マヤとマノンは出会わなくてよかった。

不管怎样，大概，摩耶没有遇到玛农的话就好了。

#　マヤは、あまりに普通の子だ。マノンの破滅願望に付き合えるとは思えない。ほんの少しであれマノンと知り合ったからこそ、よくわかる。

摩耶是个十分平凡的孩子。玛农也不觉得摩耶可以回应她的毁灭欲望。撒赫菈也能靠自己与玛农不多的交情明白这一点。

#　彼女はマヤではなく『』に傾倒していたのだ。

她为之倾倒的不是摩耶，而是『万魔殿』。

#　サハラはすっかり冷え切ったココアを飲み干す。マグカップの底には溶けきれなかった粉末が液状になって、べったりとこびりついていた。

撒赫菈抬头把彻底凉下来的可可一饮而尽。马克杯底还没没有完全溶解的粉末变成了黏腻的液体，粘在杯子里。

#「マヤは、どうして『主』……シラカミ・ハクアに会いに行くの？　まさか、本気で和睦を信じているわけじゃないでしょう」

「摩耶，为什么……要去见『主』白上·白亚？你难道不会真的相信能重归旧好吧」

#「ちがう。どうせ、騙してるに決まってるわ」

「怎么会。反正，我都肯定是被骗了」

#「じゃあ、なんで？」

「那，为什么还？」

#「あたしは……」

「因为我……」

#　ぎゅっと着物のを握る。マヤにとって縁深い人の遺品だ。寄る辺のない世界で、奇跡のようにつながった縁だ。

摩耶紧紧地抓着衣襟。这是对摩耶来说有深深因缘的人的遗物。在这无依无靠的世界中，如奇迹般交织在一起的缘分。

#「……必要と、されたい」

「想要，让人依靠」

#　愛してほしい。褒めてほしい。あなたが必要なのだと、言われたい。

想要被爱。想听到夸奖。想有人对自己说「你是最重要的」。

#　それが、異世界に召喚されて以来、ずっと抱いてきたマヤの千年変わらぬ願いだった。

这就是摩耶被召唤到异世界以来，即使已经过去千年也未曾改变的心愿。

#　マヤはさみしさに追いつかれないように、動き続けるしかなかった。千年前は、自分を必要としていた母親のもとに帰りたかった。だがその母親も、死んでしまったことを知っている。

摩耶所作所为，都只是为了摆脱这份寂寞。千年之前，她想要回去最疼爱自己的母亲身边。但如今，摩耶已经知道了母亲的死讯。

#　さみしさに追いつかれてしまっては、身動きも取れなくなる。

这如影随形的寂寞，让摩耶动弹不得。

#　だからマヤがハクアに誘われた時、彼女に会いに行く決意を固めたのは必然だった。

因此，在摩耶收到白亚的邀请的时候，摩耶执意要见白亚可以说是必然的结果。

#「もう、戻れる世界もないから……あたしが、この世界に必要なんだって、ハクアに会うことで、証明してやるの」

「因为，我已经没有可以回首的地方了……所以，我要把和白亚见面，用来证明我对这个世界并不是可有可无」

#　まだ動けるうちに、自分は必要なんだと認めさせるために。

趁着还能活动的时候，为了让世界认可自己。

#「……そう」

「……这样」

#　サハラは目を泳がせた。

撒赫菈的眼神开始四处飘动。

#　こういう時に、なにを言えばいいのか。迷った挙句に、そっと目を伏せてしまう。

这种时候，该说点什么好呢？撒赫菈对此毫无头绪，于是只好盯着地板。

#　彼女は人の心に寄り添うことに、慣れていない。誰かを愛したことがない。口先以外で褒めたこともない。他人を必要としたこともない。サハラの頭に思い浮かぶのは、メノウだったらなにかうまい言葉が出るんだろうな、という現実逃避のような思考だけだった。

撒赫菈不习惯这种和别人掏心窝的事情。也从未爱上过什么人。夸奖也从不发自内心。更没有什么重要的人。就连现在，浮现于撒赫菈脑海的，也还是「要是梅诺在这会说点什么好话呢」这种逃避现实的想法。

#　会話の尽きた静寂を埋めるように、二人の間にある溝を埋めるように、しんしんと雪が降り続けた。

像是要将这无言的沉默掩埋，又像是想填补两人之间的隔阂，白雪簌簌地不断飘落。

#